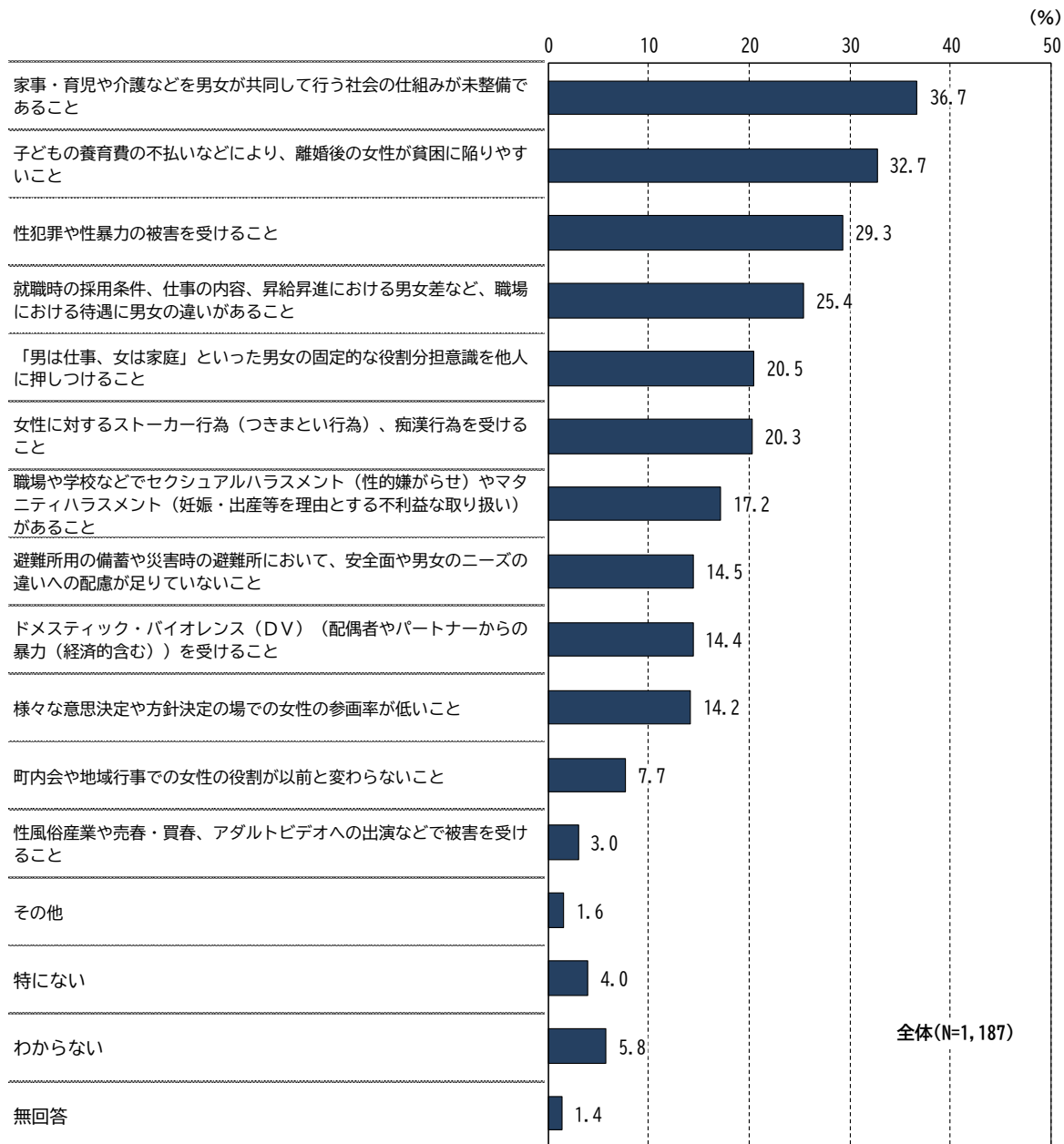


## 2 女性に関する問題について

問 13 女性に関する事柄で、人権上、あなたが特に問題があると思うのはどのようなことですか。(〇は3つまで)

図表 13-1 女性に関する事柄で、人権上問題があると思われること (全体)



女性に関する事柄で、人権上、特に問題があると思われることとしては、「家事・育児や介護などを男女が共同して行う社会の仕組みが未整備であること」が36.7%と最も高くなっている。次いで「子どもの養育費の不払いなどにより、離婚後の女性が貧困に陥りやすいこと」(32.7%)、「性犯罪や性暴力の被害を受けること」(29.3%)、「就職時の採用条件、仕事の内容、昇給昇進における男女差など、職場における男女の待遇の違い」(25.4%)、「男は仕事、女は家庭」といった男女の固定的な役割分担意識を他人に押しつけること」(20.5%)、「女性に対するストーカー行為(つきまとい行為)、痴漢行為を受けること」(20.3%)となっている。

図表 13-2 女性に関する事柄で、人権上問題があると思われること（全体／経年比較）

選択肢	今回 (N=1,187)	令和4年度 (N=1,303)	平成29年度 (N=1,136)	平成24年度 (N=1,351)	平成19年度 (N=1,863)
家事・育児や介護などを男女が共同して行う社会の仕組みの未整備であること	36.7%	41.7%	40.1%	36.7%	36.8%
子どもの養育費の不払いなどにより、離婚後の女性が貧困に陥りやすいこと※1	32.7%				
性犯罪や性暴力の被害を受けること※1	29.3%				
就職時の採用条件、仕事の内容、昇給昇進における男女差など、職場における男女の待遇の違いがあること	25.4%	31.3%	34.9%	43.7%	43.8%
「男は仕事、女は家庭」といった男女の固定的な役割分担意識を他人に押しつけること	20.5%	29.3%	34.1%	32.3%	31.2%
女性に対するストーカー行為（つきまとい行為）、痴漢行為を受けること※2	20.3%	19.4%	23.7%	29.8%	21.2%
職場や学校などにおけるセクシュアルハラスメント（性的嫌がらせ）やマタニティハラスメント（妊娠・出産等を理由とする不利益な取り扱い）※3	17.2%	26.4%	36.2%	30.5%	29.2%
避難所用の備蓄や災害時の避難所において、安全面や男女のニーズへの配慮が足りていない※1	14.5%				
ドメスティック・バイオレンス（DV）（配偶者やパートナーからの暴力（経済力を含む））を受けること※4	14.4%	22.1%	22.4%	27.9%	22.2%
様々な意思決定や方針決定の場での女性の参画率が低いこと※5	14.2%	24.7%			
町内会や地域行事での女性の役割が以前と変わらないこと※5	7.7%	8.3%			
性風俗産業や売春・買春、アダルトビデオへの出演などで被害を受けること※6	3.0%	8.1%	14.9%	15.0%	14.8%
その他	1.6%	1.2%	0.8%	0.4%	1.3%
特になし	4.0%	3.9%	6.6%	5.6%	6.2%
わからない※5	5.8%	3.6%			
無回答	1.4%	5.1%	3.3%	3.2%	3.2%

※1 今回調査から追加した選択肢

※2 「を受けること」を今回調査から追加

※3 平成24年度調査以前は「職場や学校などにおけるセクシュアルハラスメント（性的いやがらせ）」

※4 平成24年度調査以前は「ドメスティック・バイオレンス（DV）（配偶者や恋人からの心身に与える暴力）」

※5 令和4年度調査から追加した選択肢

※6 平成29年度調査では「風俗産業や売春・買春（いわゆる「JKビジネス」を含む）」、平成24年度調査以前は「風俗産業や売春・買春（いわゆる「援助交際」を含む）」

令和4年度と比較すると、上位項目では、「家事・育児や介護などを男女が共同して行う社会の仕組みの未整備であること」が5.0ポイント減少しているものの、引き続き最も高くなっている。次いで今回新たに追加した「子どもの養育費の不払いなどにより、離婚後の女性が貧困に陥りやすいこと」が32.7%、「性犯罪や性暴力の被害を受けること」が29.3%となっている。

過去の調査結果と比較すると、「就職時の採用条件、仕事の内容、昇給昇進における男女差など、職場における男女の待遇の違いがあること」「男は仕事、女は家庭」といった男女の固定的な役割分担意識を他人に押しつけること」「職場や学校などにおけるセクシュアルハラスメント（性的嫌がらせ）やマタニティハラスメント（妊娠・出産等を理由とする不利益な取り扱い）」は平成29年度以降減少傾向にある。

図表 13-3 女性に関する事柄で、人権上問題があると思われること（性・年代別）

(数値：%)

		サンプル数	家事・育児や介護などを男女が共同で行う社会の仕組みが未整備であること	子どもの養育費の不払いなどにより、離婚後の女性が貧困に陥りやすいこと	性犯罪や性暴力の被害を受けること	就職時の採用条件、仕事の内容、昇給昇進における男女差など、職場における待遇に男女の違いがあること	「男は仕事、女は家庭」といった男女の固定的な役割分担意識を他人に押しつけること	女性に対するストーーカー行為（つきまとい行為）、痴漢行為を受けること	な取り扱い）があること	職場や学校などでセクシアルハラスメント（性的嫌がらせ）やマタニティハララスメント（妊娠・出産等を理由とする不利益な取り扱い）があること	避難所の備蓄や災害時の避難所において、安全面や女性のニーズの違うへの配慮が足りていないこと
全体		1,187	36.7	32.7	29.3	25.4	20.5	20.3	17.2	14.5	
性・年代別	女性 計	678	40.3	35.0	32.2	25.7	21.5	19.8	16.1	17.6	
	18～29歳	82	45.1	26.8	31.7	30.5	23.2	20.7	● 31.7	13.4	
	30代	86	● 51.2	39.5	33.7	27.9	24.4	16.3	25.6	14.0	
	40代	115	36.5	36.5	33.9	22.6	● 33.0	16.5	13.9	19.1	
	50代	109	41.3	38.5	● 45.0	22.0	18.3	21.1	11.9	17.4	
	60代	115	34.8	39.1	33.0	26.1	20.0	22.6	14.8	17.4	
	70代	106	43.4	36.8	24.5	25.5	17.0	23.6	4.7	● 25.5	
	80歳以上	65	29.2	20.0	16.9	27.7	10.8	15.4	15.4	12.3	
	男性 計	473	31.7	29.4	25.6	24.7	19.0	20.9	18.6	10.1	
	18～29歳	51	31.4	21.6	19.6	33.3	25.5	11.8	19.6	2.0	
	30代	56	33.9	23.2	21.4	25.0	16.1	12.5	17.9	19.6	
	40代	56	33.9	35.7	26.8	14.3	21.4	19.6	21.4	17.9	
	50代	92	29.3	28.3	34.8	17.4	20.7	29.3	21.7	8.7	
	60代	87	31.0	34.5	23.0	28.7	21.8	27.6	23.0	9.2	
70代	92	33.7	35.9	23.9	25.0	17.4	16.3	12.0	7.6		
80歳以上	38	28.9	13.2	23.7	● 36.8	5.3	21.1	13.2	7.9		
		サンプル数	（経済的含む）を受けけること	ドメスティック・バイオレンス（DV）から配偶者の暴力を受けること	様々な意思決定や方針決定の場での女性の参画率が低いこと	市内会や地域行事での女性の役割が以前と変わらな	性風俗産業や春・買春・出演などでの被害を受けること	その他	特にな	わからない	無回答
全体		1,187	14.4	14.2	7.7	3.0	1.6	4.0	5.8	1.4	
性・年代別	女性 計	678	13.6	16.1	7.5	2.2	1.0	2.8	4.6	1.5	
	18～29歳	82	6.1	13.4	8.5	2.4	1.2	-	6.1	1.2	
	30代	86	9.3	7.0	5.8	3.5	2.3	-	3.5	-	
	40代	115	14.8	9.6	15.7	3.5	1.7	2.6	-	1.7	
	50代	109	17.4	16.5	4.6	0.9	1.8	4.6	1.8	-	
	60代	115	18.3	22.6	4.3	1.7	-	2.6	4.3	0.9	
	70代	106	13.2	21.7	5.7	2.8	-	2.8	2.8	3.8	
	80歳以上	65	12.3	21.5	7.7	-	-	7.7	● 20.0	3.1	
	男性 計	473	15.9	11.8	8.0	4.2	2.1	5.5	7.2	1.5	
	18～29歳	51	9.8	11.8	5.9	2.0	2.0	9.8	9.8	-	
	30代	56	3.6	12.5	5.4	-	1.8	-	10.7	-	
	40代	56	14.3	1.8	10.7	7.1	5.4	1.8	5.4	-	
	50代	92	19.6	14.1	8.7	4.3	1.1	4.3	4.3	1.1	
	60代	87	24.1	12.6	4.6	6.9	1.1	1.1	5.7	1.1	
70代	92	16.3	14.1	10.9	5.4	1.1	8.7	6.5	4.3		
80歳以上	38	15.8	13.2	10.5	-	5.3	● 18.4	13.2	2.6		

※   = 全体の数値より+5ポイント、● = 全体の数値より+10ポイント

性別にみると、男女とも「家事・育児や介護などを男女が共同で行う社会の仕組みの未整備であること」（女性 40.3%、男性 31.7%）が最も高く、次いで「子どもの養育費の不払いなどにより、離婚後の女性が貧困に陥りやすいこと」（女性 35.0%、男性 29.4%）、「性犯罪や性暴力の被害を受けること」

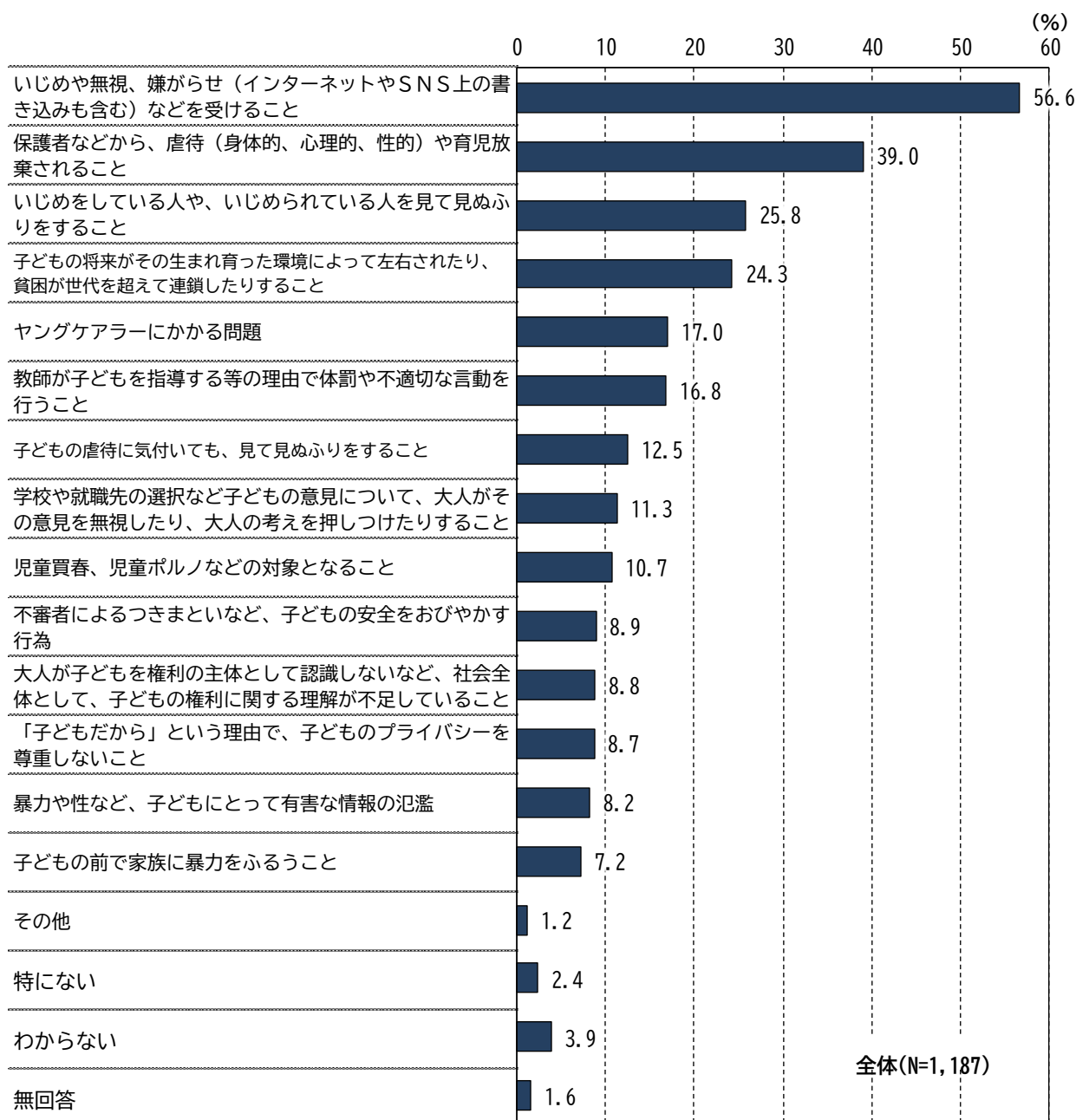
(女性 32.2%、男性 25.6%) となっているが、いずれの項目でも女性の方が男性よりも高くなっている。

性・年代別にみると、女性では、18～29 歳で「職場や学校などでセクシュアルハラスメント（性的嫌がらせ）やマタニティハラスメント（妊娠・出産等を理由とする不利益な取り扱い）があること」、30 代で「家事・育児や介護などを男女が共同して行う社会の仕組みが未整備であること」、40 代で「男は仕事、女は家庭」といった男女の固定的な役割分担意識を他人に押しつけること」、50 代で「性犯罪や性暴力の被害を受けること」、70 代で「避難所用の備蓄や災害時の避難所において、安全面や男女のニーズの違いへの配慮が足りていないこと」、80 歳以上で「わからない」、男性では 80 歳以上で「就職時の採用条件、仕事の内容、昇給昇進における男女差など、職場における待遇に男女の違いがあること」「特になし」が全体よりも 10 ポイント以上高くなっている。

### 3 子どもに関する問題について

問 14 子どもに関する事柄で、人権上、あなたが特に問題があると思うのはどのようなことですか。(〇は3つまで)

図表 14-1 子どもに関する事柄で、人権上問題があると思われること (全体)



子どもに関する事柄で、人権上、特に問題があると思うこととしては、「いじめや無視、嫌がらせ (インターネットやSNS上の書き込みも含む) などを受けること」が56.6%と最も高くなっている。次いで「保護者などから、虐待 (身体的、心理的、性的) や育児放棄されること」(39.0%)、「いじめをしている人や、いじめられている人を見て見ぬふりをする事」(25.8%)、「子どもの将来がその生まれ育った環境によって左右されたり、貧困が世代を超えて連鎖したりすること」(24.3%)となっている。

図表 14-2 子どもに関する事柄で、人権上問題があると思われること（全体／経年比較）

選択肢	今回 (N=1,187)	令和4年度 (N=1,303)	平成29年度 (N=1,136)	平成24年度 (N=1,351)	平成19年度 (N=1,863)
いじめや無視、嫌がらせ（インターネットやSNS上の書き込みも含む）などを受けること※1	56.6%	52.3%	46.9%	52.5%	48.7%
保護者などから、虐待（身体的、心理的、性的）や育児放棄されること※2	39.0%	44.9%	48.7%	44.0%	36.1%
いじめをしている人や、いじめられている人を見て見ぬふりをする事	25.8%	24.8%	36.5%	35.3%	35.3%
子どもの将来がその生まれ育った環境によって左右されたり、貧困が世代を超えて連鎖したりすること※3	24.3%	28.6%	33.9%		
ヤングケアラーにかかる問題※4	17.0%	16.0%			
教師が子どもを指導する等の理由で体罰や不適切な言動を行うこと※5	16.8%	19.2%	10.3%	5.4%	7.2%
子どもの虐待に気付いても、見て見ぬふりをする事	12.5%	17.6%	21.0%	28.2%	26.0%
学校や就職先の選択など子どもの意見について、大人がその意見を無視したり、大人の考えを押しつけたりすること	11.3%	8.2%	13.3%	21.3%	27.7%
児童買春、児童ポルノなどの対象となること※6	10.7%	11.5%	15.3%	23.1%	21.1%
不審者によるつきまといなど、子どもの安全をおびやかす行為	8.9%	6.8%	10.4%	11.0%	11.1%
大人が子どもを権利の主体として認識しないなど、社会全体として、子どもの権利に関する理解が不足していること※7	8.8%				
「子どもだから」という理由で、子どものプライバシーを尊重しないこと	8.7%	6.3%	7.4%	15.0%	14.6%
暴力や性など、子どもにとって有害な情報の氾濫	8.2%	7.7%	11.5%	20.1%	21.7%
子どもの前で家族に暴力をふるうこと※8	7.2%	8.6%	12.8%	14.4%	12.3%
その他	1.2%	1.0%	0.8%	0.4%	1.0%
特になし	2.4%	1.8%	2.5%	2.4%	1.8%
わからない※4	3.9%	2.2%			
無回答	1.6%	4.8%	3.3%	1.9%	2.6%

※1 平成29年度調査は「いじめや無視、嫌がらせなどを受けること」、平成24年度以前は「子ども同士で、仲間はづれや無視、身体への直接攻撃や相手が嫌がることをしたり、させたりするなど、いじめを行うこと」

※2 平成24年度調査以前は「保護者などが子どもを身体的、心理的（放任や無視を含む）、性的に虐待すること」

※3 平成29年度調査から追加した選択肢

※4 令和4年度調査から追加した選択肢

※5 平成29年度調査以前は「教師が子どもを指導する等の理由で体罰を加えること」

※6 平成24年度調査以前は「児童買春・売春、児童ポルノなど」

※7 今回調査から追加した選択肢

※8 平成24年度調査以前は「子どもの前で配偶者に暴力をふるうこと」

令和4年度と比較すると、上位項目では、「いじめや無視、嫌がらせ（インターネットやSNS上の書き込みも含む）などを受けること」は4.3ポイント増加、「保護者などから、虐待（身体的、心理的、性的）や育児放棄されること」は5.9ポイント減少、「いじめをしている人や、いじめられている人を見て見ぬふりをする事」は1.0ポイント増加、「子どもの将来がその生まれ育った環境によって左右されたり、貧困が世代を超えて連鎖したりすること」は4.3ポイント減少している。

過去の調査結果と比較すると、上位項目に大きな変化はみられないが、「いじめや無視、嫌がらせ（インターネットやSNS上の書き込みも含む）などを受けること」が平成29年度以降増加傾向にある。

図表 14-3 子どもに関する事柄で、人権上問題があると思われること（性・年代別）

(数値：%)

	サンプル数	きこえ込みも含む)	いじめや無視、嫌がらせの書き込みも含む)	保護者などから、虐待(身体)	められたりしている人を見ぬふりをする	いじめをして人を見ぬふりをする	鎖じたりする	育つた環境がよくなる	子どもがその生まれ	ヤングケアラーにかかる問題	理由で体罰や不適切な言動を	教師が子どもを指導する等の	見て見ぬふりをすること	子どもの虐待に気付いても、	考えを押しつけたり、大人の	の意見が無視したり、大人の	学校の意見について、大人がそ	学校や就職先の選択など子ど	児童買春、児童ポルノなどの	児童買春、児童ポルノなどの
全体	1,187	56.6	39.0	25.8	24.3	17.0	16.8	12.5	11.3	10.7										
性・年代別	女性計	678	54.9	38.9	22.9	27.7	20.9	17.1	11.9	11.1										
	18~29歳	82	51.2	36.6	23.2	23.2	13.4	12.2	11.0	● 28.0										
	30代	86	62.8	37.2	18.6	24.4	20.9	17.4	12.8	11.6										
	40代	115	61.7	36.5	24.3	29.6	23.5	21.7	9.6	9.6										
	50代	109	52.3	● 52.3	14.7	30.3	● 28.4	15.6	11.0	10.1	14.7									
	60代	115	55.7	42.6	25.2	33.9	23.5	14.8	13.0	7.0	10.4									
	70代	106	53.8	34.9	29.2	24.5	17.9	19.8	14.2	7.5	11.3									
	80歳以上	65	41.5	26.2	24.6	24.6	13.8	16.9	12.3	7.7	4.6									
	男性計	473	59.8	40.0	30.2	19.5	11.6	16.5	13.7	11.2	10.1									
	18~29歳	51	51.0	35.3	● 41.2	17.6	3.9	23.5	7.8	11.8	3.9									
	30代	56	64.3	37.5	16.1	14.3	14.3	17.9	16.1	12.5	5.4									
	40代	56	55.4	41.1	● 42.9	17.9	16.1	19.6	12.5	7.1	10.7									
	50代	92	● 70.7	48.9	25.0	26.1	13.0	15.2	8.7	14.1	13.0									
	60代	87	63.2	40.2	28.7	13.8	14.9	14.9	20.7	11.5	16.1									
70代	92	51.1	39.1	32.6	23.9	9.8	14.1	14.1	9.8	8.7										
80歳以上	38	57.9	26.3	28.9	18.4	5.3	13.2	15.8	10.5	5.3										

	サンプル数	不審者による安全をおびやか	子どもによる安全をおびやか	大人が子どもを権利の主体として認識しないこと	大人が子どもを権利の主体として認識しないこと	子どもが権利の主体として認識しないこと	子どもが権利の主体として認識しないこと	子どもが権利の主体として認識しないこと	子どもが権利の主体として認識しないこと	子どもが権利の主体として認識しないこと	子どもが権利の主体として認識しないこと	子どもが権利の主体として認識しないこと	子どもが権利の主体として認識しないこと	子どもが権利の主体として認識しないこと	子どもが権利の主体として認識しないこと	子どもが権利の主体として認識しないこと	子どもが権利の主体として認識しないこと	子どもが権利の主体として認識しないこと	子どもが権利の主体として認識しないこと	子どもが権利の主体として認識しないこと
全体	1,187	8.9	8.8	8.7	8.2	7.2	1.2	2.4	3.9	1.6										
性・年代別	女性計	678	9.7	8.3	8.7	9.3	7.4	0.4	2.1	1.8										
	18~29歳	82	11.0	7.3	15.9	2.4	4.9	-	1.2	1.2										
	30代	86	10.5	9.3	12.8	10.5	5.8	-	1.2	4.7										
	40代	115	13.0	6.1	7.8	7.0	7.0	0.9	0.9	1.7										
	50代	109	5.5	9.2	8.3	12.8	7.3	0.9	-	2.8										
	60代	115	8.7	11.3	6.1	12.2	7.0	0.9	2.6	3.5	0.9									
	70代	106	10.4	7.5	4.7	10.4	11.3	-	1.9	1.9	5.7									
	80歳以上	65	9.2	6.2	7.7	7.7	7.7	-	9.2	9.2	3.1									
	男性計	473	8.0	9.5	8.7	6.3	6.3	2.1	2.7	3.8	1.5									
	18~29歳	51	9.8	13.7	7.8	-	7.8	2.0	3.9	5.9	-									
	30代	56	12.5	10.7	14.3	1.8	8.9	5.4	-	5.4	-									
	40代	56	10.7	1.8	17.9	7.1	1.8	5.4	1.8	1.8	-									
	50代	92	4.3	5.4	4.3	8.7	3.3	2.2	1.1	1.1	-									
	60代	87	10.3	9.2	9.2	6.9	5.7	-	1.1	5.7	1.1									
70代	92	5.4	14.1	5.4	8.7	6.5	1.1	5.4	4.3	3.3										
80歳以上	38	5.3	13.2	5.3	7.9	15.8	-	7.9	2.6	7.9										

※ =全体の数値より+5ポイント、●=全体の数値より+10ポイント

性別にみると、男女とも「いじめや無視、嫌がらせ（インターネットやSNS上の書き込みも含む）などを受けること」（女性 54.9%、男性 59.8%）が最も高く、次いで「保護者などから、虐待（身体的、心理的、性的）や育児放棄されること」（女性 38.9%、男性 40.0%）は共通しているが、これらに次いで、女性では「子どもの将来がその生まれ育った環境によって左右されたり、貧困が世代を超えて連鎖したりすること」（女性 27.7%）、男性では「いじめをしている人や、いじめられている人を見て見ぬふりをすること」（男性 30.2%）となっている。

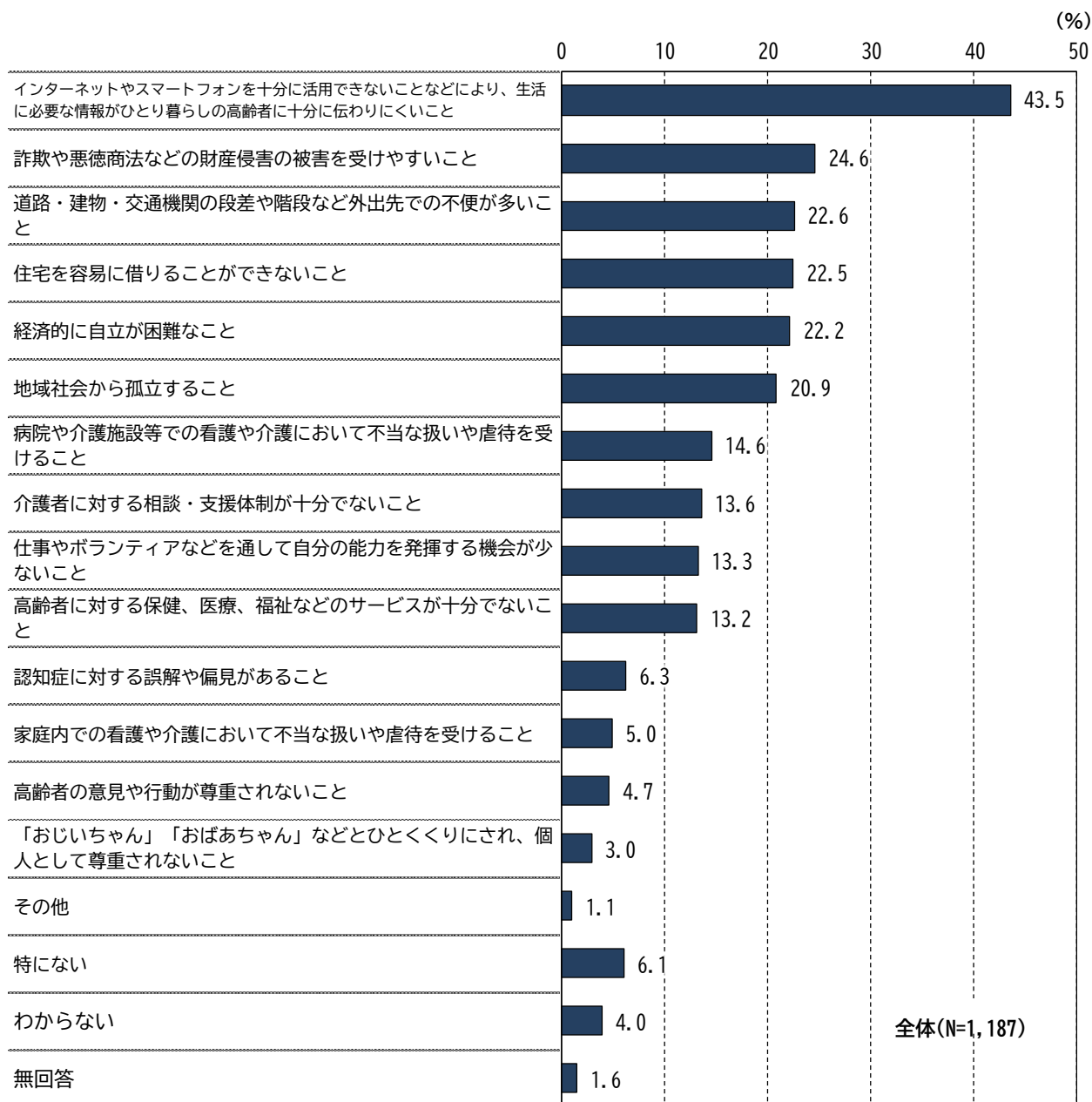
また、男女で差が大きいものとしては、「ヤングケアラーにかかる問題」（女性 20.9%、男性 11.6%）、「子どもの将来がその生まれ育った環境によって左右されたり、貧困が世代を超えて連鎖したりすること」（女性 27.7%、男性 19.5%）は女性の方が高く、「いじめをしている人や、いじめられている人を見て見ぬふりをすること」（女性 22.9%、男性 30.2%）は男性の方が高くなっている。

性・年代別にみると、女性 18～29 歳では「学校や就職先の選択など子どもの意見について、大人がその意見を無視したり、大人の考えを押しついたりすること」、女性 50 代では「保護者などから、虐待（身体的、心理的、性的）や育児放棄されること」「ヤングケアラーにかかる問題」、男性 18～29 歳・40 代では「いじめをしている人や、いじめられている人を見て見ぬふりをすること」、男性 50 代では「いじめや無視、嫌がらせ（インターネットやSNS上の書き込みも含む）などを受けること」が全体よりも 10 ポイント以上高くなっている。

## 4 高齢者に関する問題について

問 15 高齢者に関する事柄で、人権上、あなたが特に問題があると思うのはどのようなことですか。(〇は3つまで)

図表 15-1 高齢者に関する事柄で、人権上問題があると思われること (全体)



高齢者に関する事柄で、人権上、特に問題があると思うこととしては、「インターネットやスマートフォンを十分に活用できないことなどにより、生活に必要な情報がひとり暮らしの高齢者に十分に伝わりにくいこと」が43.5%と最も高くなっている。次いで「詐欺や悪徳商法などの財産侵害の被害を受けやすいこと」(24.6%)、「道路・建物・交通機関の段差や階段など外出先での不便が多いこと」(22.6%)、「住宅を容易に借りることができないこと」(22.5%)、「経済的に自立が困難なこと」(22.2%)「地域社会から孤立すること」(20.9%)となっている。

図表 15-2 高齢者に関する事柄で、人権上問題があると思われること（全体／経年比較）

選択肢	今回 (N=1,187)	令和4年度 (N=1,303)	平成29年度 (N=1,136)	平成24年度 (N=1,351)	平成19年度 (N=1,863)
インターネットやスマートフォンを十分に活用できないことなどにより、生活に必要な情報がひとり暮らしの高齢者に十分に伝わりにくいこと※1	43.5%	40.1%	26.8%	30.1%	22.3%
詐欺や悪徳商法などの財産侵害の被害を受けやすいこと※2	24.6%	21.7%	24.0%	30.1%	25.2%
道路・建物・交通機関の段差や階段など外出先での不便が多いこと※3	22.6%	21.6%	23.9%	25.3%	28.7%
住宅を容易に借りることができないこと	22.5%	17.7%	13.3%	14.7%	15.7%
経済的に自立が困難なこと	22.2%	21.0%	27.1%	31.4%	26.4%
地域社会から孤立すること※4	20.9%	23.6%	31.8%		
病院や介護施設等での看護や介護において不当な扱いや虐待を受けること※5	14.6%	18.6%	23.2%	24.6%	28.4%
介護者に対する相談・支援体制が十分でないこと※6	13.6%	14.8%			
仕事やボランティアなどを通して自分の能力を発揮する機会が少ないこと	13.3%	12.2%	18.1%	21.6%	20.3%
高齢者に対する保健、医療、福祉などのサービスが十分でないこと	13.2%	12.9%	21.9%	27.8%	36.4%
認知症に対する誤解や偏見があること※7	6.3%	7.4%	10.7%	12.2%	9.8%
家庭内での看護や介護において不当な扱いや虐待を受けること	5.0%	8.6%	9.2%	13.5%	13.6%
高齢者の意見や行動が尊重されないこと	4.7%	5.8%	6.4%	11.3%	11.8%
「おじいちゃん」「おばあちゃん」などとひとくりにされ、個人として尊重されないこと※8	3.0%	3.8%	4.3%	5.0%	4.6%
その他	1.1%	1.2%	0.1%	0.7%	1.1%
特になし	6.1%	4.5%	4.8%	3.6%	3.0%
わからない※6	4.0%	3.1%			
無回答	1.6%	3.2%	2.5%	1.8%	2.5%

※1 平成29年度調査以前は「生活に必要な情報がひとり暮らしの高齢者に十分に伝わりにくいこと」

※2 平成24年度調査以前は「詐欺や悪徳商法の被害を受けやすいこと」

※3 平成29年度調査以前は「道路の段差や建物の階段など外出先での不便が多いこと」

※4 平成29年度調査から追加した選択肢

※5 平成24年度調査以前は「病院や特別養護老人ホーム等での看護や介護において不当な扱いや虐待を受けること」

※6 令和4年度調査から追加した選択肢

※7 平成24年度調査以前は「認知症に対する誤解や偏見に基づく不当な扱いを受けること」

※8 平成24年度調査以前は「名前を知っているのに「おじいちゃん」「おばあちゃん」などと一括して呼ぶこと」

令和4年度と比較すると、「インターネットやスマートフォンを十分に活用できないことなどにより、生活に必要な情報がひとり暮らしの高齢者に十分に伝わりにくいこと」が最も高い点は変わらないが、2番目に多かった「地域社会から孤立すること」が23.6%から2.7ポイント減の20.9%と順位も降下している。また、「住宅を容易に借りることができないこと」が17.7%から4.8ポイント増の22.5%となっている。

過去の調査結果と比較すると、「インターネットやスマートフォンを十分に活用できないことなどにより、生活に必要な情報がひとり暮らしの高齢者に十分に伝わりにくいこと」は、平成29年度以降増加傾向にあり、令和4年度以降は4割台で推移している。

図表 15-3 高齢者に関する事柄で、人権上問題があると思われること（性・年代別）

(数値：%)

	サンプル数	高齢者に対する保健、医療、福祉などのサービスが十分でないこと	仕事やボランティアなどを通じて自分の能力を発揮する機会が少ないこと	介護者に対する相談・支援体制が十分でないこと	病院や介護施設等での看護や介護において不当な扱いや虐待を受けること	地域社会から孤立すること	経済的に自立が困難なこと	住宅を容易に借りることができないこと	道路・建物・交通機関の段差や階段など外出先での不便が多いこと	詐欺や悪徳商法などの財産侵害の被害を受けやすいこと	インターネットやスマートフォンを十分に活用できないことなどにより、生活に必要な情報がとりにくいこと	
全体	1,187	43.5	24.6	22.2	20.9	14.6	13.6	13.3	13.2			
性・年代別	女性 計	678	47.1	24.0	20.8	15.9	14.6	13.3	11.4			
	18～29歳	82	51.2	31.7	19.5	7.3	19.5	24.4	15.9	11.0	7.3	2.4
	30代	86	38.4	24.4	22.1	19.8	19.8	24.4	18.6	15.1	15.1	9.3
	40代	115	43.5	27.8	25.2	22.6	27.0	27.8	13.0	11.3	15.7	11.3
	50代	109	44.0	27.5	25.7	32.1	22.9	16.5	18.3	14.7	9.2	13.8
	60代	115	51.3	14.8	18.3	33.0	27.8	19.1	21.7	20.9	19.1	19.1
	70代	106	46.2	21.7	26.4	20.8	19.8	20.8	15.1	17.0	15.1	11.3
	80歳以上	65	58.5	21.5	44.6	21.5	12.3	9.2	4.6	9.2	7.7	7.7
	男性 計	473	39.1	26.2	18.8	21.6	20.9	22.0	12.3	11.8	13.3	15.2
	18～29歳	51	39.2	23.5	17.6	-	11.8	23.5	15.7	5.9	9.8	9.8
	30代	56	37.5	28.6	12.5	14.3	23.2	23.2	14.3	10.7	5.4	5.4
	40代	56	42.9	23.2	23.2	16.1	21.4	25.0	14.3	12.5	7.1	14.3
	50代	92	39.1	29.3	21.7	30.4	26.1	27.2	10.9	13.0	20.7	15.2
	60代	87	43.7	24.1	18.4	36.8	21.8	20.7	9.2	9.2	23.0	17.2
70代	92	33.7	32.6	15.2	19.6	21.7	16.3	13.0	13.0	8.7	20.7	
80歳以上	38	39.5	13.2	26.3	18.4	13.2	15.8	7.9	18.4	10.5	21.1	
	サンプル数	認知症に対する誤解や偏見があること	家庭内での看護や虐待を受けること	高齢者の意見や行動が尊重されないこと	「おじいちゃん」「おばあちゃん」として尊重されないこと	その他	特になし	わからない	無回答			
全体	1,187	6.3	5.0	4.7	3.0	1.1	6.1	4.0	1.6			
性・年代別	女性 計	678	6.2	4.7	3.8	4.0	0.6	5.0	3.8	1.5		
	18～29歳	82	6.1	8.5	2.4	3.7	-	1.2	6.1	2.4		
	30代	86	4.7	4.7	7.0	-	-	7.0	7.0	-		
	40代	115	7.0	10.4	2.6	3.5	1.7	4.3	6.1	0.9		
	50代	109	5.5	3.7	1.8	0.9	0.9	2.8	1.8	2.8		
	60代	115	5.2	2.6	2.6	7.0	-	2.6	2.6	-		
	70代	106	5.7	0.9	8.5	5.7	-	4.7	1.9	2.8		
	80歳以上	65	10.8	1.5	1.5	7.7	1.5	16.9	1.5	1.5		
	男性 計	473	6.8	5.5	6.1	1.9	1.5	7.6	4.0	1.7		
	18～29歳	51	7.8	9.8	2.0	-	2.0	11.8	9.8	-		
	30代	56	10.7	5.4	3.6	-	1.8	5.4	5.4	1.8		
	40代	56	8.9	10.7	7.1	1.8	1.8	10.7	3.6	1.8		
	50代	92	5.4	4.3	6.5	-	1.1	4.3	2.2	-		
	60代	87	3.4	6.9	9.2	2.3	-	3.4	1.1	2.3		
70代	92	6.5	2.2	4.3	3.3	3.3	9.8	5.4	1.1			
80歳以上	38	7.9	-	10.5	7.9	-	13.2	2.6	7.9			

※   =全体の数値より+5ポイント、● =全体の数値より+10ポイント

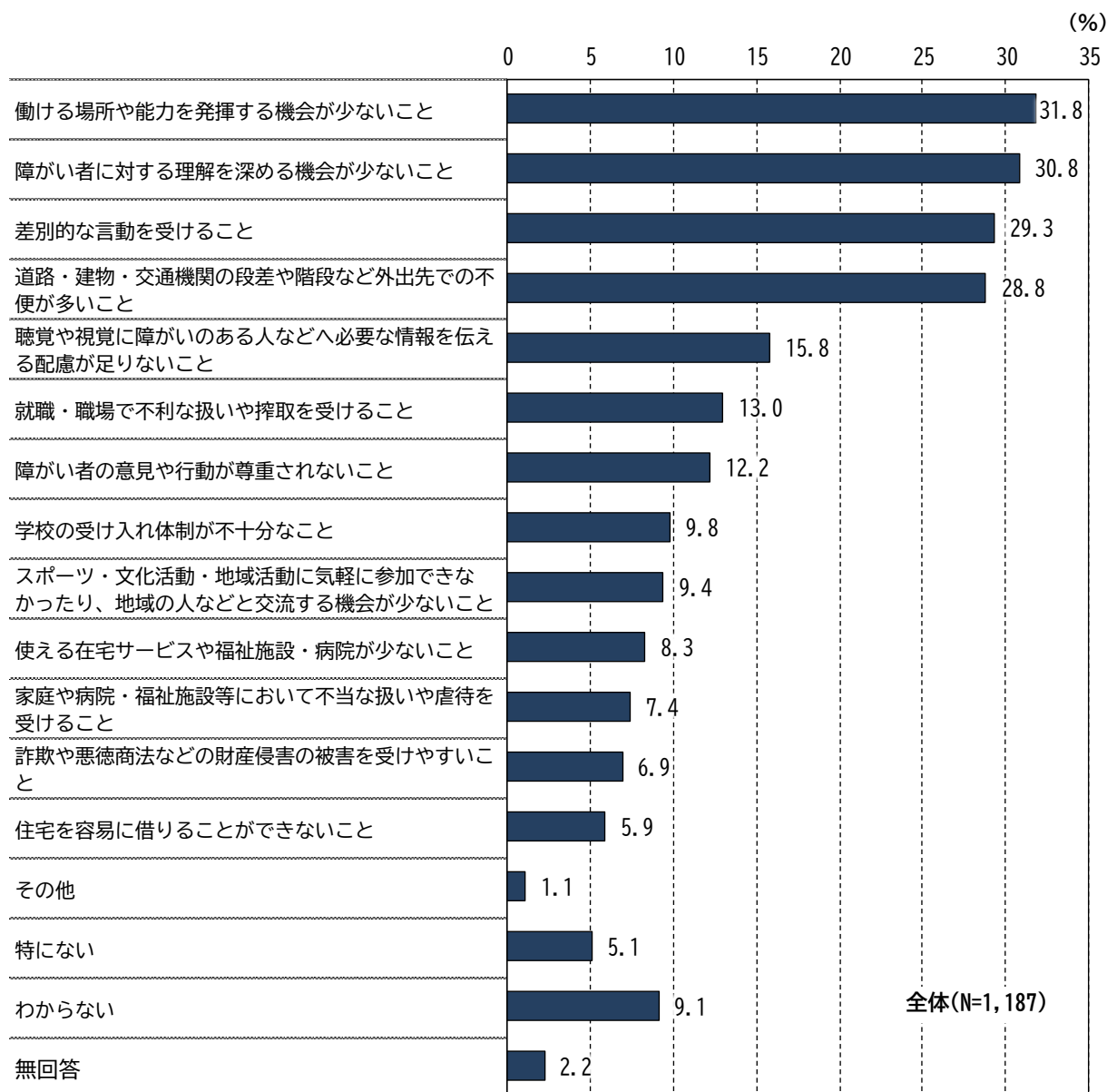
性別にみると、男女とも「インターネットやスマートフォンを十分に活用できないことなどにより、生活に必要な情報がひとり暮らしの高齢者に十分に伝わりにくいこと」（女性 47.1%、男性 39.1%）が最も高いが、次いで女性では「道路・建物・交通機関の段差や階段など外出先での不便が多いこと」（25.1%）、「詐欺や悪徳商法などの財産侵害の被害を受けやすいこと」（24.0%）、男性では「詐欺や悪徳商法などの財産侵害の被害を受けやすいこと」（26.2%）、「地域社会から孤立すること」（22.0%）の順となっている。また、女性では「インターネットやスマートフォンを十分に活用できないことなどにより、生活に必要な情報がひとり暮らしの高齢者に十分に伝わりにくいこと」が 47.1%と男性（39.1%）に比べて 8.0 ポイント、「道路・建物・交通機関の段差や階段など外出先での不便が多いこと」が 25.1%と男性（18.8%）に比べて 6.3 ポイント高くなっている。

性・年代別にみると、女性 80 代以上で「インターネットやスマートフォンを十分に活用できないことなどにより、生活に必要な情報がひとり暮らしの高齢者に十分に伝わりにくいこと」「道路・建物・交通機関の段差や階段など外出先での不便が多いこと」、男女 60 代で「住宅を容易に借りることができないこと」、女性 80 歳以上で「特にない」が全体よりも 10 ポイント以上高くなっている。

## 5 障がい者に関する問題について

問 16 障がい者に関する事柄で、人権上、あなたが特に問題があると思うのはどのようなことですか。(〇は3つまで)

図表 16-1 障がい者に関する事柄で、人権上問題があると思われること (全体)



障がい者に関する事柄で、人権上、特に問題があると思うこととしては、「働ける場所や能力を発揮する機会が少ないこと」が31.8%と最も高くなっている。次いで「障がい者に対する理解を深める機会が少ないこと」(30.8%)、「差別的な言動を受けること」(29.3%)、「道路・建物・交通機関の段差や階段など外出先での不便が多いこと」(28.8%)となっている。

図表 16-2 障がい者に関する事柄で、人権上問題があると思われること（全体／経年比較）

選択肢	今回 (N=1,187)	令和4年度 (N=1,303)	平成29年度 (N=1,136)	平成24年度 (N=1,351)	平成19年度 (N=1,863)
働ける場所や能力を発揮する機会が少ないこと	31.8%	35.0%	38.2%	43.3%	43.0%
障がい者に対する理解を深める機会が少ないこと※1	30.8%	30.4%	31.6%	31.7%	29.7%
差別的な言動を受けること	29.3%	29.9%	33.0%	30.8%	29.9%
道路・建物・交通機関の段差や階段など外出先での不便が多いこと※2	28.8%	30.4%	29.8%	26.7%	28.6%
聴覚や視覚に障がいのある人などへ必要な情報を伝える配慮が足りないこと※3	15.8%	19.3%	21.1%	18.5%	15.9%
就職・職場で不利な扱いや搾取を受けること※4	13.0%	15.3%	15.4%	17.8%	16.6%
障がい者の意見や行動が尊重されないこと※6	12.2%	9.1%	14.7%	19.1%	18.7%
学校の受け入れ体制が不十分なこと	9.8%	13.7%	14.3%	17.2%	18.0%
スポーツ・文化活動・地域活動に気軽に参加できなかったり、地域の人などと交流する機会が少ないこと※7	9.4%	9.0%	4.6%	5.0%	4.7%
使える在宅サービスや福祉施設・病院が少ないこと	8.3%	7.2%	10.5%	11.3%	14.3%
家庭や病院・福祉施設等において不当な扱いや虐待を受けること※5	7.4%	9.8%	8.5%	8.8%	7.9%
詐欺や悪徳商法などの財産侵害の被害を受けやすいこと※8	6.9%	6.1%	6.8%	6.3%	7.6%
住宅を容易に借りることができないこと	5.9%	5.5%	4.0%	5.0%	4.8%
その他	1.1%	1.5%	0.4%	0.5%	1.2%
特になし	5.1%	3.5%	5.5%	4.1%	3.6%
わからない※9	9.1%	6.3%			
無回答	2.2%	3.3%	3.2%	3.8%	3.5%

- ※1 平成24年度調査以前は「人々の障がい者に対する理解を深める機会が少ないこと」
- ※2 平成29年度調査以前は「道路の段差や建物の階段など外出先での不便が多いこと」
- ※3 平成24年度調査以前は「聴覚や視覚に障がいのある人などへ必要な情報を伝える配慮が足りないこと」
- ※4 平成24年度調査以前は「就職・職場で不利な扱いを受けること」
- ※5 平成24年度調査以前は「病院や福祉施設において不当な扱いや虐待を受けること」
- ※6 平成24年度調査以前は「障がい者の意見や行動が尊重されないこと（結婚、就職に際しての周囲の反対等）」
- ※7 平成29年度調査以前は「スポーツ・文化活動・地域活動に気軽に参加できないこと」
- ※8 平成24年度調査以前は「詐欺や悪徳商法の被害を受けやすいこと」
- ※9 令和4年度調査から追加した選択肢

令和4年度と比較すると、上位項目では、「働ける場所や能力を発揮する機会が少ないこと」は3.2ポイント減少、「障がい者に対する理解を深める機会が少ないこと」は0.4ポイント増加、「差別的な言動を受けること」は0.6ポイント減少、「道路・建物・交通機関の段差や階段など外出先での不便が多いこと」は1.6ポイント減少している。

過去の調査結果と比較すると、上位項目に順位の変動はあるものの、大きな変化はみられないが、最も高い「働ける場所や能力を発揮する機会が少ないこと」は平成19年度以降、減少傾向にある。

図表 16-3 障がい者に関する事柄で、人権上問題があると思われること（性・年代別）

(数値：%)

	サンプル数	働く機会が少ないこと	障がい者に対する理解を深める機会が少ないこと	差別的な言動を受けること	便が階段など外先での不便が多いこと	道路・建物・交通機関の段差	人などへ必要な情報を伝える配慮が足りないこと	聴覚や視覚に障がいのある人への必要情報	搾取を受けること	就職・職場で不利な扱いや重さ	障がい者の意見や行動が尊重されないこと	学校の受け入れ体制が不十分なこと	交流する機会が少ないこと	活動に気軽に参加できないこと	スポーツ・文化活動・地域活動	施設・病院が少くないこと	使える在宅サービスや福祉施設	おいて不当な扱いや虐待を受けること	家庭や病院・福祉施設等に
全体	1,187	31.8	30.8	29.3	28.8	15.8	13.0	12.2	9.8	9.4	8.3	7.4	9.4	8.3	9.6	8.3	7.4	8.3	
性・年代別	女性計	678	31.7	30.2	31.6	15.8	13.1	10.3	10.2	9.1	9.6	8.3	9.1	8.1	5.8	7.0	7.0	7.0	
	18～29歳	82	36.6	34.1	18.3	12.2	18.3	8.5	9.8	11.0	12.2	8.5	11.0	8.1	5.8	7.0	7.0	7.0	
	30代	86	36.0	48.8	15.1	22.1	16.3	7.0	12.8	8.1	5.8	7.0	8.1	5.8	7.0	7.0	7.0	7.0	
	40代	115	34.8	35.7	32.2	19.1	16.5	13.0	12.2	6.1	9.6	9.6	6.1	9.6	9.6	9.6	9.6	9.6	
	50代	109	22.9	28.4	34.9	13.8	19.3	8.3	11.9	11.0	10.1	10.1	11.0	10.1	10.1	10.1	10.1	10.1	
	60代	115	33.0	26.1	39.1	17.4	8.7	9.6	10.4	3.5	8.7	7.8	10.4	3.5	8.7	7.8	8.7	7.8	
	70代	106	32.1	24.5	39.6	12.3	7.5	13.2	8.5	16.0	9.4	9.4	8.5	16.0	9.4	9.4	9.4	9.4	
	80歳以上	65	26.2	10.8	36.9	12.3	3.1	12.3	3.1	9.2	12.3	3.1	3.1	9.2	12.3	3.1	12.3	3.1	
	男性計	473	33.0	28.1	24.9	15.4	13.3	14.8	9.5	9.5	6.8	5.7	9.5	9.5	6.8	5.7	5.7	5.7	
	18～29歳	51	31.4	43.1	7.8	11.8	21.6	11.8	9.8	7.8	2.0	5.9	9.8	7.8	2.0	5.9	2.0	5.9	
	30代	56	33.9	30.4	16.1	8.9	16.1	10.7	10.7	7.1	7.1	8.9	10.7	7.1	7.1	8.9	7.1	8.9	
	40代	56	28.6	33.9	25.0	17.9	12.5	14.3	8.9	14.3	3.6	5.4	8.9	14.3	3.6	5.4	3.6	5.4	
	50代	92	32.6	31.5	34.8	17.4	12.0	15.2	10.9	10.9	4.3	4.3	10.9	10.9	4.3	4.3	4.3	4.3	
	60代	87	43.7	28.7	33.3	21.8	14.9	12.6	19.5	12.6	6.9	6.9	12.6	6.9	8.0	6.9	8.0	6.9	
70代	92	30.4	16.3	31.5	17.4	13.0	15.2	6.5	9.8	7.6	4.3	6.5	9.8	7.6	4.3	7.6	4.3		
80歳以上	38	21.1	2.6	28.9	18.4	5.3	10.5	5.3	10.5	18.4	5.3	5.3	10.5	18.4	5.3	18.4	5.3		

	サンプル数	と侵害の被害を受けやすいこと	住宅を容易に借りることができないこと	その他	特にな	わからない	無回答	
全体	1,187	6.9	5.9	1.1	5.1	9.1	2.2	
性・年代別	女性計	678	7.4	5.2	0.7	3.5	9.9	1.5
	18～29歳	82	7.3	4.9	1.2	1.2	4.9	3.7
	30代	86	3.5	5.8	-	5.8	10.5	-
	40代	115	4.3	7.0	0.9	0.9	9.6	0.9
	50代	109	5.5	3.7	0.9	1.8	8.3	0.9
	60代	115	10.4	3.5	0.9	4.3	13.0	-
	70代	106	8.5	2.8	-	2.8	9.4	2.8
	80歳以上	65	13.8	10.8	1.5	10.8	13.8	3.1
	男性計	473	6.3	6.8	1.7	7.2	7.4	3.4
	18～29歳	51	5.9	5.9	-	11.8	5.9	-
	30代	56	3.6	10.7	3.6	5.4	8.9	3.6
	40代	56	8.9	5.4	-	10.7	5.4	3.6
	50代	92	1.1	6.5	4.3	6.5	7.6	-
	60代	87	10.3	8.0	-	3.4	6.9	2.3
70代	92	7.6	5.4	2.2	7.6	7.6	3.3	
80歳以上	38	7.9	5.3	-	7.9	10.5	18.4	

※      = 全体の数値より+5ポイント、● = 全体の数値より+10ポイント

性別にみると、男女とも「働ける場所や能力を發揮する機会が少ないこと」(女性 31.7%、男性 33.0%) が最も高い(なお、女性では「障がい者に対する理解を深める機会が少ないこと」も同率で最も高い)。次いで高いのは、男性では「障がい者に対する理解を深める機会が少ないこと」(男性 30.0%)、「差別的な言動を受けること」(男性 28.1%) で、女性では「道路・建物・交通機関の段差や階段など外出先での不便が多いこと」(31.6%) となっている。

また、女性では「道路・建物・交通機関の段差や階段など外出先での不便が多いこと」が 31.6% と、男性 (24.9%) に比べて 6.7 ポイント高くなっている。

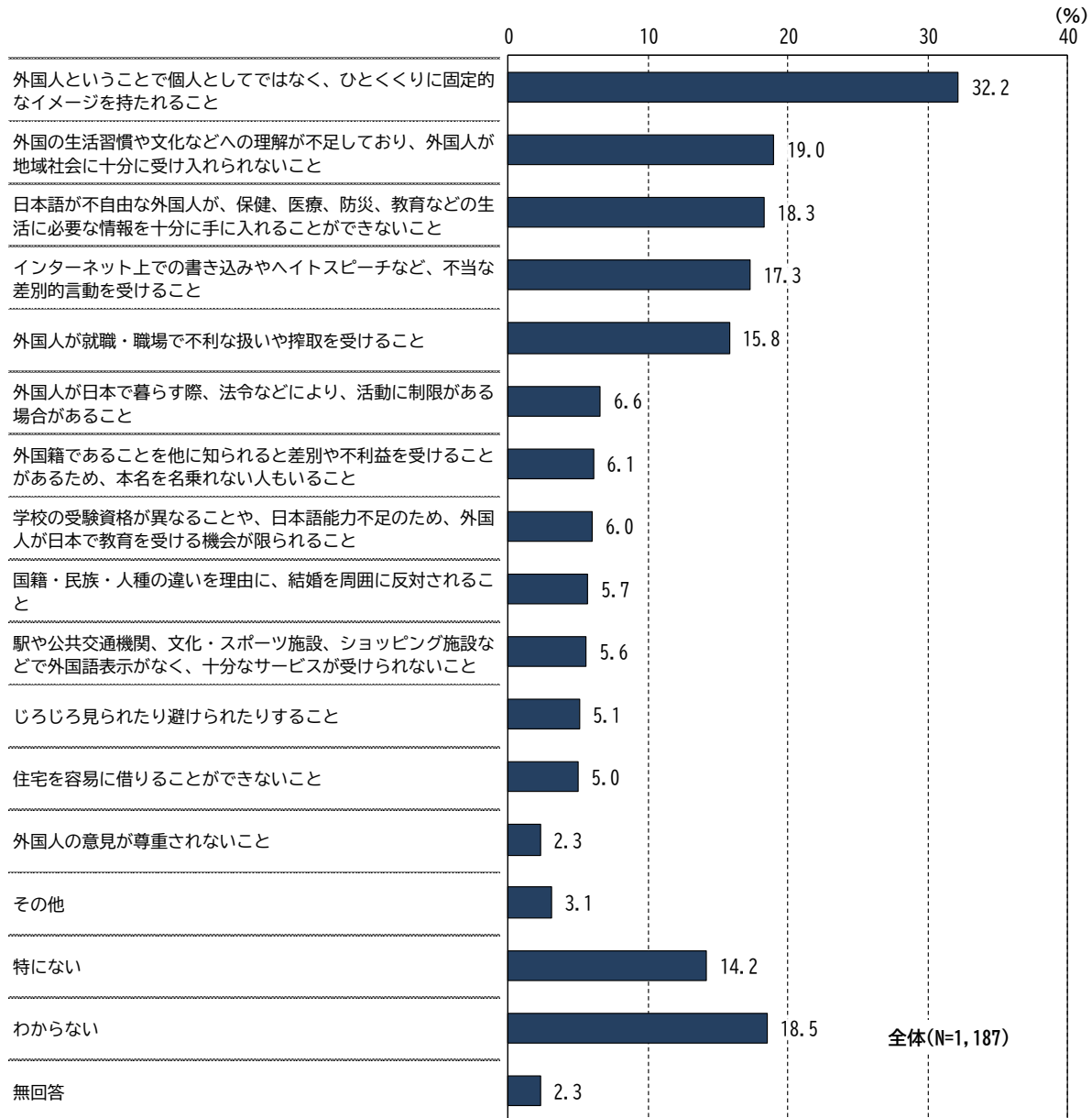
性・年代別にみると、男性 60 代では「働ける場所や能力を發揮する機会が少ないこと」、女性 30 代、男性 18~29 歳では「差別的な言動を受けること」、女性 60 代・70 代では「道路・建物・交通機関の段差や階段など外出先での不便が多いこと」、男性 80 歳以上では「使える在宅サービスや福祉施設・病院が少ないこと」が全体よりも 10 ポイント以上高くなっている。

## 6 外国人に関する問題について

### (1) 日本に居住する外国人に関する事柄で、人権上問題があると思われること

問 17 日本に居住する外国人に関する事柄で、人権上、あなたが特に問題があると思うのはどのようなことですか。(〇は3つまで)

図表 17-1 日本に居住する外国人に関する事柄で、人権上問題があると思われること (全体)



日本に居住する外国人に関する事柄で、人権上、特に問題があると思うこととしては、「外国人ということで個人としてではなく、ひとくくりに固定的なイメージを持たれること」が32.2%と最も高くなっている。次いで「外国の生活習慣や文化などへの理解が不足しており、外国人が地域社会に十分に受け入れられないこと」(19.0%)、「日本語が不自由な外国人が、保健、医療、防災、教育などの生活に必要な情報を十分に手に入れることができないこと」(18.3%)、「インターネット上での書き込みやヘイトスピーチなど、不当な差別的言動を受けること」(17.3%)、「外国人が就職・職場で不利な扱いや搾取を受けること」(15.8%)となっている。

また、「わからない」が18.5%と高くなっている。

図表 17-2 日本に居住する外国人に関する事柄で、人権上問題があると思われること（全体／経年比較）

選択肢	今回 (N=1, 187)	令和4年度 (N=1, 303)	平成29年度 (N=1, 136)	平成24年度 (N=1, 351)	平成19年度 (N=1, 863)
外国人ということで個人としてではなく、ひとくくり固定的なイメージを持たれること※1	32.2%				
外国の生活習慣や文化などへの理解が不足しており、外国人が地域社会に十分に受け入れられないこと	19.0%	22.3%	28.1%	27.7%	34.3%
日本語が不自由な外国人が、保健、医療、防災、教育などの生活に必要な情報を十分に手に入れることができないこと※2	18.3%	30.6%	31.7%	34.2%	23.2%
インターネット上での書き込みやヘイトスピーチなど、不当な差別的言動を受けること※3	17.3%	15.7%	16.8%	7.5%	18.3%
外国人が就職・職場で不利な扱いや搾取を受けること※4	15.8%	25.9%	20.8%	19.0%	24.0%
外国人が日本で暮らす際、法令などにより、活動に制限がある場合があること※5	6.6%	0.1%	15.0%	15.2%	
外国籍であることを他に知られると差別や不利益を受けることがあるため、本名を名乗れない人もいること	6.1%	7.2%	12.6%	17.3%	7.4%
学校の受験資格が異なることや、日本語能力不足のため、外国人が日本で教育を受ける機会が限られること※6	6.0%	12.3%	13.6%	16.3%	8.5%
国籍・民族・人種の違いを理由に、結婚を周囲に反対されること※7	5.7%	9.9%	9.1%	14.4%	13.0%
駅や公共交通機関、文化・スポーツ施設、ショッピング施設などで外国語表示がなく、十分なサービスが受けられないこと	5.6%	8.3%	14.0%	11.8%	13.8%
じろじろ見られたり避けられたりすること※8	5.1%	9.5%			
住宅を容易に借りることができないこと※9	5.0%	8.4%	9.2%	9.7%	11.3%
外国人の意見が尊重されないこと※10	2.3%	4.9%	5.5%	4.7%	6.7%
その他	3.1%	1.7%	0.4%	0.7%	2.3%
特になし	14.2%	7.1%	16.0%	16.4%	13.0%
わからない※8	18.5%	17.5%			
無回答	2.3%	2.7%	7.3%	8.1%	5.6%

※1 今回調査から追加した選択肢

※2 平成24年度調査以前は「日本語が不自由な外国人が、保健、医療、防災、教育などの生活に必要な情報を十分に手に入れることが困難であること」

※3 平成24年度調査以前は「インターネットや落書き、または直接に、外国人が差別的な言動を受けること」

※4 平成24年度調査以前は「外国人が就職や仕事の内容、待遇で不利な扱いや搾取を受けること」

※5 平成24年度調査から追加した選択肢で、平成24年度調査以前は「外国人が日本で暮らす際、法令などにより、活動に制限がある場合が多いこと」

※6 平成19年度調査では「学校の受験資格の扱いや、受け入れ体制が十分でないこと」

※7 平成24年度調査では「国籍・民族・人種の違いを理由に、結婚を周囲が反対すること」、平成19年度調査では「国籍を理由に、結婚に周囲が反対すること」

※8 令和4年度調査から追加した選択肢

※9 平成24年度調査以前は「外国人が住宅を借りることが容易でないこと」

※10 平成19年度調査では「外国人の意見や行動が尊重されないこと」

令和4年度と比較すると、今回新たに追加した「外国人ということで個人としてではなく、ひとくくり固定的なイメージを持たれること」が32.2%で最も高くなっている。前回最も高かった「日本語が不自由な外国人が、保健、医療、防災、教育などの生活に必要な情報を十分に手に入れることができないこと」は30.6%から12.3ポイント減少し18.3%となり、2番目に高かった「外国人が就職・職場で不利な扱いや搾取を受けること」も25.9%から10.1ポイント減少し15.8%となっている。また、「特になし」が7.1ポイント増加し、14.2%となっている。

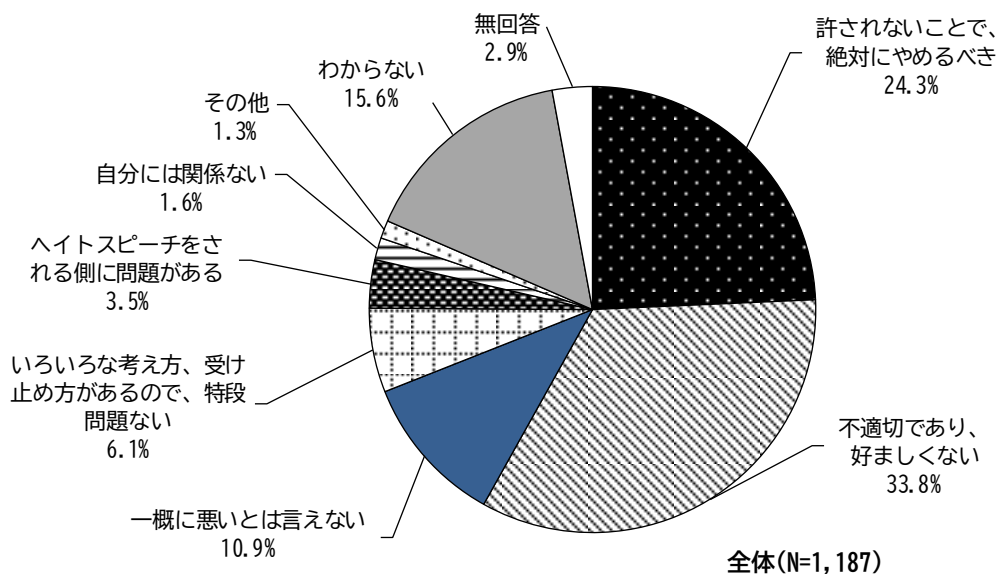
過去の調査結果と比較すると、今回設定した「外国人ということで個人としてではなく、ひとくくり固定的なイメージを持たれること」が影響してか、従来からあった項目の割合が大きく減少している。



## (2) ハイトスピーチについて

問 18 外国人に対するハイトスピーチについて、あなたはどのように思いますか。  
(○は1つだけ)

図表 18-1 ハイトスピーチについて (全体)



外国人に対するハイトスピーチについては、「不適切であり、好ましくない」が 33.8%と最も高い。次いで「許されないことで、絶対にやめるべき」(24.3%)となっている。その一方で、「一概に悪いとは言えない」(10.9%)、「いろいろな考え方、受け止め方があるので、特段問題ない」(6.1%)、「ハイトスピーチをされる側に問題がある」(3.5%)、「自分には関係ない」(1.6%)といった意見もある。

図表 18-2 ハイトスピーチについて (性・年代別)

(数値：%)

	サンプル数	許されぬべきこと、絶対にやめるべき	不適切であり、好ましくない	一概に悪いとは言えない	いろいろな考え方、受け止め方があるので、特段問題ない	ハイトスピーチをされる側に問題がある	自分には関係ない	その他	わからない	無回答	
全体	1,187	24.3	33.8	10.9	6.1	3.5	1.6	1.3	15.6	2.9	
性・年代別	女性計	678	23.5	35.0	10.8	5.5	2.7	1.6	1.0	17.6	2.5
	18～29歳	82	25.6	29.3	19.5	7.3	-	1.2	3.7	12.2	1.2
	30代	86	17.4	33.7	15.1	4.7	8.1	4.7	-	14.0	2.3
	40代	115	20.9	34.8	13.9	7.8	2.6	-	1.7	16.5	1.7
	50代	109	18.3	41.3	9.2	5.5	1.8	0.9	1.8	18.3	2.8
	60代	115	28.7	31.3	7.8	8.7	2.6	-	-	17.4	3.5
	70代	106	30.2	44.3	3.8	-	1.9	1.9	-	17.0	0.9
	80歳以上	65	21.5	24.6	7.7	3.1	1.5	4.6	-	30.8	6.2
	男性計	473	25.2	33.4	10.6	7.4	4.7	1.7	1.9	12.3	3.0
	18～29歳	51	27.5	27.5	21.6	11.8	5.9	-	-	5.9	-
	30代	56	8.9	35.7	5.4	14.3	8.9	1.8	7.1	12.5	5.4
	40代	56	28.6	26.8	14.3	5.4	10.7	1.8	1.8	8.9	1.8
	50代	92	28.3	27.2	17.4	4.3	1.1	2.2	3.3	16.3	-
60代	87	21.8	51.7	4.6	3.4	1.1	1.1	-	13.8	2.3	
70代	92	26.1	38.0	4.3	5.4	6.5	1.1	1.1	14.1	3.3	
80歳以上	38	39.5	10.5	10.5	13.2	-	5.3	-	7.9	13.2	

※ [ ] = 全体の数値より+5ポイント、● = 全体の数値より+10ポイント

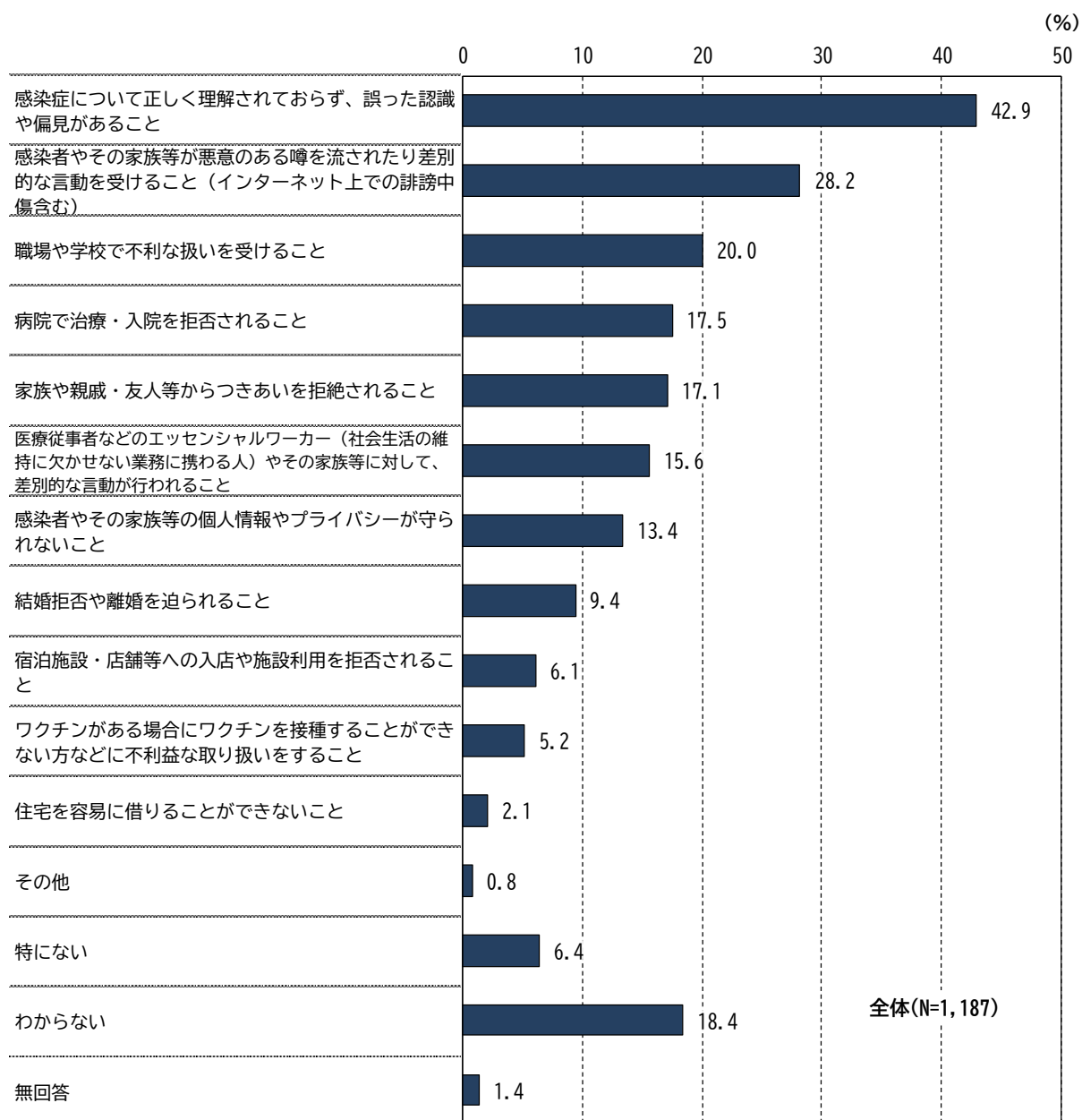
性別にみると、男女間での大きな差はみられない。

性・年代別にみると、男性 80 歳以上で「許されぬべきこと、絶対にやめるべき」、女性 70 代、男性 60 代で「不適切であり、好ましくない」、男性 18～29 歳で「一概に悪いとは言えない」、女性 80 歳以上で「わからない」が全体よりも 10 ポイント以上高くなっている。

## 7 感染症の患者等（HIV 感染者・肝炎ウイルス感染者・新型インフルエンザ等の感染者等）に関する問題について

問 19 感染症の患者等（HIV 感染者・肝炎ウイルス感染者・新型インフルエンザ等の感染者等）に関する事柄で、人権上、あなたが特に問題があると思うのはどのようなことですか。（○は3つまで）（※）

図表 19-1 感染症の患者等に関する事柄で、人権上問題があると思われること（全体）



※設問文は、令和4年度調査は「あなたが、エイズ患者・HIV感染者に関する事柄で、人権上、特に問題があると思うのはどのようなことですか。」で、平成29年度調査以前は、「あなたが、HIV（エイズウイルス）感染者などに関する事柄で、人権上、特に問題があると思うのはどのようなことですか。」

感染症の患者等に関する事柄で、人権上、特に問題があると思うこととしては、「感染症について正し

く理解されておらず、誤った認識や偏見があること」が42.9%と最も高くなっている。次いで「感染者やその家族等が悪意のある噂を流されたり差別的な言動を受けること（インターネット上での誹謗中傷含む）」(28.2%)、「職場や学校で不利な扱いを受けること」(20.0%)となっている。

また、「わからない」が18.4%と高くなっている。

図表 19-2 感染症の患者等に関する事柄で、人権上問題があると思われること（全体／経年比較）

選択肢	今回 (N=1,187)	令和4年度 (N=1,303)	平成29年度 (N=1,136)	平成24年度 (N=1,351)	平成19年度 (N=1,863)
感染症について正しく理解されておらず、誤った認識や偏見があること※1	42.9%	38.4%	22.2%	26.8%	24.7%
感染者やその家族等が悪意のある噂を流されたり差別的な言動を受けること（インターネット上での誹謗中傷含む）※2	28.2%	26.2%	36.1%	45.7%	41.7%
職場や学校で不利な扱いを受けること	20.0%	16.3%	28.9%	31.9%	35.3%
病院で治療・入院を拒否されること	17.5%	11.7%	23.5%	29.0%	30.8%
家族や親戚・友人等からつきあいを拒絶されること	17.1%	19.5%	30.6%	34.3%	37.4%
医療従事者などのエッセンシャルワーカー（社会生活の維持に欠かせない業務に携わる人）やその家族等に対して、差別的な言動が行われること※3	15.6%				
感染者やその家族等の個人情報やプライバシーが守られないこと※4	13.4%	16.6%	24.7%	26.0%	22.4%
結婚拒否や離婚を迫られること	9.4%	12.0%	14.9%	19.4%	20.1%
宿泊施設・店舗等への入店や施設利用を拒否されること※5	6.1%	5.4%	9.1%		
ワクチンがある場合にワクチンを接種することができない方などに不利益な取り扱いをすること※3	5.2%				
住宅を容易に借りることができないこと	2.1%	1.5%	3.7%	4.3%	4.1%
その他	0.8%	0.5%	-	0.1%	1.5%
特になし	6.4%	6.1%	13.0%	9.5%	7.4%
わからない※6	18.4%	27.1%			
無回答	1.4%	2.5%	8.8%	6.1%	5.8%

- ※1 令和4年度調査は「エイズやHIVについて正しく理解されておらず、誤った認識や偏見があること」、平成29年度調査は「マスメディアによって誤った内容を報道されること」、平成24年度調査以前は「メディアによって誤った内容を報道されること」  
 ※2 平成24年度調査以前は「悪い噂を流されたり差別的な言動を受けること」、令和4年度調査までは「悪意のある噂を流されたり差別的な言動を受けること」  
 ※3 今回調査から追加した選択肢  
 ※4 平成24年度調査以前は「病気に関する個人情報が他人に伝えられるなど、プライバシーが守られないこと」、令和4年度までは「病気に関する個人情報が本人に無断で他人に伝えられるなど、プライバシーが守られないこと」  
 ※5 平成29年度調査から追加した選択肢  
 ※6 令和4年度調査から追加した選択肢

令和4年度と比較すると、上位項目には、大きな変化はみられないが、「感染症について正しく理解されておらず、誤った認識や偏見があること」が4.5ポイント増加し42.9%となり、他の項目を大きく引き離している。

過去の調査結果と比較すると、「感染症について正しく理解されておらず、誤った認識や偏見があること」は増加傾向にある。平成19年度に最も高かった「感染者やその家族等が悪意のある噂を流されたり差別的な言動を受けること（インターネット上での誹謗中傷含む）」は41.7%から13.5ポイント減少し28.2%となっている。

図表 19-3 感染症の患者等に関する事柄で、人権上問題があると思われること（性・年代別）

(数値：%)

	サンプル数	感染症について正しく理解されず、誤った認識や偏見があること	感染者やその家族等が悪意のある噂を流されたり差別的な言動を受けること(インターネット上での誹謗中傷含む)	職場や学校で不利な扱いを受けること	病院で治療・入院を拒否されること	家族や親戚・友人等からつきあいを拒絶されること	家族等に対して、差別的な言動が行われること	医療従事者などのエッセンシャルワーカー(社会生活の維持に欠かせない業務に携わる人)やその家族等に対する差別	ブライバシーが守られないこと	感染者やその家族等の個人情報やプライバシーが守られないこと	結婚拒否や離婚を迫られること	宿泊施設・店舗等への入店や施設利用を拒否されること
全体	1,187	42.9	28.2	20.0	17.5	17.1	15.6	13.4	9.4	6.1		
性・年代別	女性 計	678	45.9	27.9	18.7	17.6	16.8	18.3	13.6	8.8	5.9	
	18~29歳	82	47.6	34.1	15.9	14.6	18.3	19.5	14.6	14.6	3.7	
	30代	86	38.4	33.7	19.8	11.6	14.0	17.4	7.0	15.1	5.8	
	40代	115	44.3	27.8	15.7	19.1	20.9	13.0	17.4	14.8	7.8	
	50代	109	46.8	32.1	18.3	17.4	21.1	19.3	9.2	9.2	2.8	
	60代	115	51.3	24.3	20.0	15.7	15.7	21.7	20.0	3.5	6.1	
	70代	106	50.9	22.6	23.6	24.5	17.0	25.5	13.2	2.8	7.5	
	80歳以上	65	36.9	20.0	16.9	18.5	6.2	7.7	10.8	1.5	7.7	
	男性 計	473	39.3	29.0	22.2	16.9	18.0	12.1	13.7	10.1	7.0	
	18~29歳	51	39.2	29.4	19.6	17.6	29.4	11.8	15.7	25.5	7.8	
	30代	56	33.9	25.0	21.4	10.7	23.2	7.1	12.5	7.1	5.4	
	40代	56	39.3	32.1	21.4	21.4	17.9	14.3	16.1	16.1	5.4	
	50代	92	38.0	38.0	27.2	10.9	25.0	14.1	15.2	13.0	4.3	
	60代	87	49.4	24.1	21.8	18.4	14.9	10.3	16.1	8.0	8.0	
70代	92	40.2	28.3	17.4	17.4	7.6	14.1	8.7	2.2	9.8		
80歳以上	38	26.3	21.1	28.9	28.9	10.5	10.5	13.2	2.6	7.9		

	サンプル数	不利益な取り扱いはないこと	ワケが分からないこと	ワケが分からないこと	住宅を容易に借りること	その他	特になし	わからない	無回答
全体	1,187	5.2	2.1	0.8	6.4	18.4	1.4		
性・年代別	女性 計	678	5.0	2.1	0.9	4.4	18.0	1.5	
	18~29歳	82	7.3	1.2	-	2.4	14.6	1.2	
	30代	86	5.8	-	1.2	3.5	24.4	-	
	40代	115	4.3	5.2	0.9	2.6	11.3	1.7	
	50代	109	3.7	0.9	1.8	3.7	16.5	-	
	60代	115	5.2	2.6	0.9	3.5	19.1	-	
	70代	106	3.8	0.9	0.9	6.6	12.3	3.8	
	80歳以上	65	6.2	3.1	-	10.8	35.4	4.6	
	男性 計	473	5.5	1.9	0.6	8.9	17.8	1.5	
	18~29歳	51	2.0	2.0	-	7.8	11.8	-	
	30代	56	8.9	1.8	1.8	3.6	25.0	1.8	
	40代	56	7.1	-	-	8.9	10.7	3.6	
	50代	92	2.2	3.3	1.1	5.4	17.4	-	
	60代	87	6.9	-	1.1	4.6	18.4	1.1	
70代	92	4.3	2.2	-	15.2	21.7	-		
80歳以上	38	10.5	5.3	-	21.1	13.2	7.9		

※   = 全体の数値より+5ポイント、● = 全体の数値より+10ポイント

性別にみると、男女とも「感染症について正しく理解されず、誤った認識や偏見があること」（女性 45.9%、男性 39.3%）が最も高く、次いで「感染者やその家族等が悪意のある噂を流されたり差別的な言動を受けること（インターネット上での誹謗中傷含む）」（女性 27.9%、男性 29.0%）、「職場や学校で不利な扱いを受けること」（女性 18.7%、男性 22.2%）となっている。

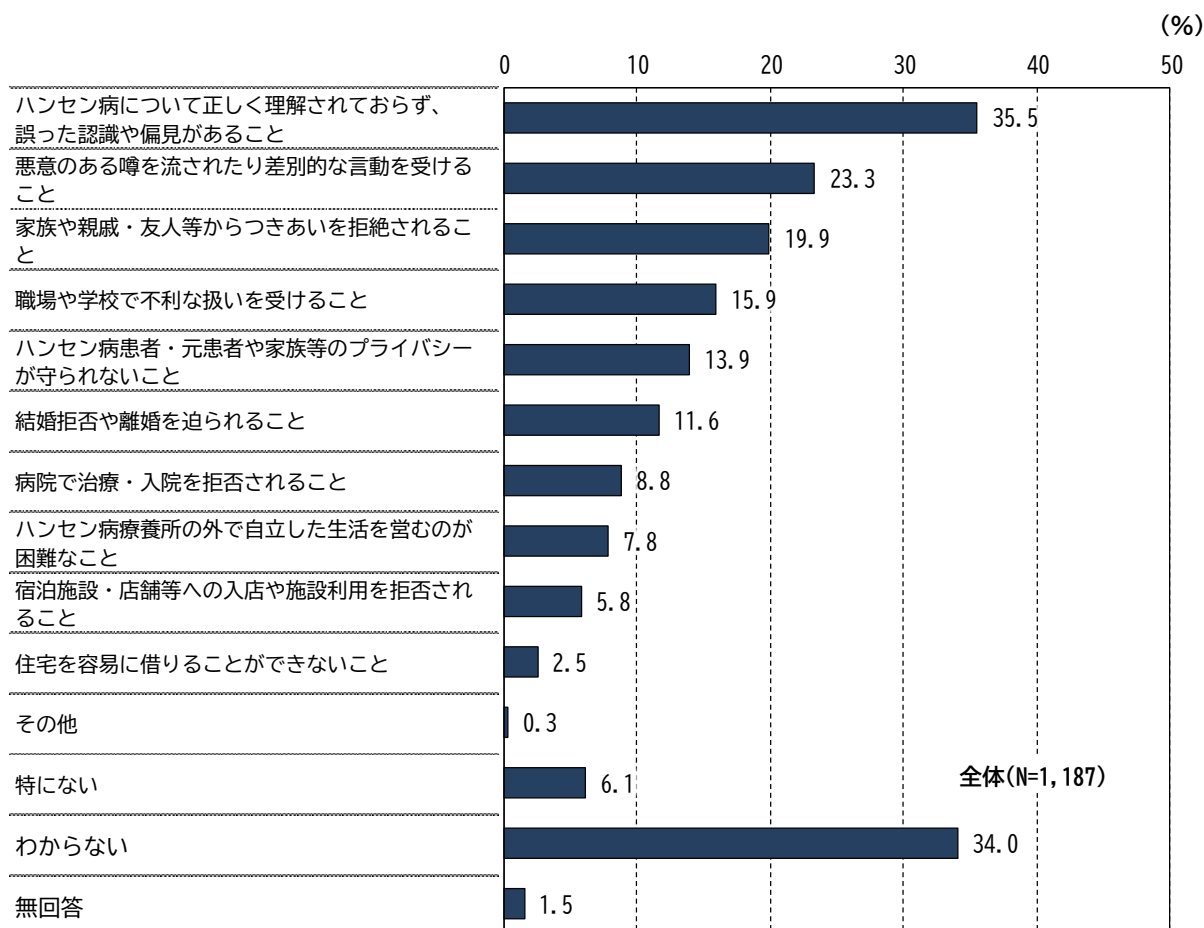
また、女性では「感染症について正しく理解されておらず、誤った認識や偏見があること」が45.9%と、男性（39.3%）に比べて6.6ポイント高くなっている。

性・年代別にみると、男性80歳以上で「病院で治療・入院を拒否されること」「特にない」、男性18～29歳で「家族や親戚・友人等からつきあいを拒絶されること」「結婚拒否や離婚を迫られること」、女性80歳以上で「わからない」が全体よりも10ポイント以上高くなっている。

## 8 ハンセン病患者等に関する問題について

問 20 ハンセン病患者・元患者やその家族等に関する事柄で、人権上、あなたが特に問題があると思うのはどのようなことですか。(〇は3つまで)

図表 20-1 ハンセン病患者・元患者やその家族等に関する事柄で、人権上問題があると思われること (全体)



ハンセン病患者・元患者やその家族等に関する事柄で、人権上、特に問題があると思うこととしては、「ハンセン病について正しく理解されておらず、誤った認識や偏見があること」が35.5%と最も高くなっている。次いで「悪意のある噂を流されたり差別的な言動を受けること」(23.3%)、「家族や親戚・友人等からつきあいを拒絶されること」(19.9%)となっている。

また、「わからない」が34.0%と高くなっている。

図表 20-2 ハンセン病患者・元患者やその家族等に関する事柄で、人権上問題があると思われること  
(全体/経年比較)

選択肢	今回 (N=1,187)	令和4年度 (N=1,303)
ハンセン病について正しく理解されておらず、誤った認識や偏見があること	35.5%	36.1%
悪意のある噂を流されたり差別的な言動を受けること	23.3%	21.1%
家族や親戚・友人等からつきあいを拒絶されること	19.9%	19.0%
職場や学校で不利な扱いを受けること	15.9%	12.4%
ハンセン病療養所の外で自立した生活を営むのが困難なこと	13.9%	10.1%
結婚拒否や離婚を迫られること	11.6%	10.1%
病院で治療・入院を拒否されること	8.8%	6.9%
ハンセン病患者・元患者や家族等のプライバシーが守られないこと	7.8%	14.4%
宿泊施設・店舗等への入店や施設利用を拒否されること	5.8%	6.2%
住宅を容易に借りることができないこと	2.5%	1.8%
その他	0.3%	0.5%
特になし	6.1%	6.3%
わからない	34.0%	32.2%
無回答	1.5%	2.9%

令和4年度と比較すると、上位項目に大きな変化はみられないが、令和4年度では上から4番目だった「ハンセン病患者・元患者や家族等のプライバシーが守られないこと」は14.4%から6.6ポイント減少して7.8%、8番目に下降している。

図表 20-3 ハンセン病患者・元患者やその家族等に関する事柄で、人権上問題があると思われること（性・年代別）

(数値：%)

	サンプル数	がずしく誤りがあること	ハンセン病について正しく理解されたい	けり差別的な言動を受け	悪意のある噂を流され	家族や親戚・友人等からつきあいを拒絶され	職場や学校で不利な扱いを受けること	シロヤハンセン病患者・元患者が守られないこと	結婚拒否や離婚を迫られること	否され治療・入院を拒	病で自立した生活を営むのが困難なこと	ハンセン病療養所の外	さ入宿泊施設・店舗等への利用を拒否
全体	1,187	35.5	23.3	19.9	15.9	13.9	11.6	8.8	7.8	5.8			
性・年代別	女性 計	678	37.3	23.9	20.1	15.0	14.0	10.6	9.0	8.3	5.6		
	18～29歳	82	32.9	22.0	22.0	13.4	19.5	13.4	13.4	4.9	9.8		
	30代	86	30.2	25.6	12.8	17.4	12.8	10.5	4.7	1.2	2.3		
	40代	115	35.7	28.7	20.9	19.1	13.0	10.4	13.0	7.0	2.6		
	50代	109	41.3	23.9	23.9	11.9	15.6	17.4	7.3	11.0	3.7		
	60代	115	38.3	24.3	20.0	16.5	15.7	8.7	4.3	11.3	5.2		
	70代	106	43.4	22.6	24.5	16.0	11.3	5.7	13.2	15.1	9.4		
	80歳以上	65	36.9	16.9	12.3	7.7	9.2	7.7	6.2	3.1	7.7		
	男性 計	473	33.0	23.0	19.9	17.3	13.7	13.5	8.0	7.0	6.1		
	18～29歳	51	25.5	27.5	27.5	19.6	19.6	19.6	7.8	7.8	2.0		
	30代	56	26.8	14.3	19.6	12.5	3.6	12.5	1.8	1.8	1.8		
	40代	56	26.8	21.4	21.4	10.7	8.9	17.9	8.9	3.6	5.4		
	50代	92	38.0	30.4	19.6	25.0	19.6	9.8	6.5	8.7	6.5		
	60代	87	36.8	26.4	20.7	17.2	17.2	17.2	8.0	8.0	6.9		
70代	92	38.0	20.7	14.1	14.1	12.0	6.5	8.7	10.9	9.8			
80歳以上	38	28.9	13.2	21.1	21.1	10.5	18.4	18.4	2.6	7.9			

	サンプル数	なり住宅を容易に借	その他	特にな	わから	無回	
全体	1,187	2.5	0.3	6.1	34.0	1.5	
性・年代別	女性 計	678	2.1	0.3	4.4	34.4	1.6
	18～29歳	82	2.4	2.4	3.7	24.4	3.7
	30代	86	-	-	4.7	● 45.3	-
	40代	115	0.9	-	3.5	30.4	2.6
	50代	109	0.9	-	0.9	34.9	-
	60代	115	3.5	-	2.6	36.5	-
	70代	106	2.8	-	6.6	28.3	3.8
	80歳以上	65	4.6	-	12.3	● 44.6	1.5
	男性 計	473	3.0	0.4	8.7	33.0	1.3
	18～29歳	51	3.9	-	3.9	33.3	-
	30代	56	-	-	8.9	42.9	1.8
	40代	56	1.8	-	8.9	37.5	3.6
	50代	92	2.2	-	7.6	26.1	-
	60代	87	3.4	1.1	3.4	29.9	1.1
70代	92	3.3	1.1	14.1	34.8	-	
80歳以上	38	7.9	-	15.8	28.9	5.3	

※      = 全体の数値より+5ポイント、● = 全体の数値より+10ポイント

性別にみると、男女とも「ハンセン病について正しく理解されておらず、誤った認識や偏見があること」(女性 37.3%、男性 33.0%) が最も高く、次いで「悪意のある噂を流されたり差別的な言動を受けること」(女性 23.9%、男性 23.0%)、「家族や親戚・友人等からつきあいを拒絶されること」(女性 20.1%、男性 19.9%) となっており、性別による大きな差はみられない。

性・年代別にみると、女性 30代・80歳以上、男性 30代で「わからない」が4割台と他の性・年代に比べて高くなっている。